

津久見市の小児医療・小児保健の向上を目指して

こどもの病気対策法⑨8

—元気な子どもの声がする津久見であるために—

大分大学地域医療・小児科分野 是 松 聖 悟

元気なこどもの声がする津久見であるために、私たちは何をすべきでしょうか？若者が戻ってきたくなる、または移住したくなるための就職先の確保や誘致、魅力ある観光子どもへの優れた教育などがあると思いますが、私は小児科医ですので、津久見で地域小児医療支援をさせてもらえるようになった平成20年から、子どもが健康であるための環境づくりを提案させていただきました。

最初に着手したのは、子どもの病気を減らすことです。多くの保護者が、すぐに病院にかかれる環境や医療費の負担軽減を望んでおられると思います。しかし私たちは、医療費を無料化しても、残念ながら子どもの感染症が減らないことを見いだしました。医療経済研究機構も全国データから、医療費の助成では入院率を減らすことができないことを発表しています。一方、私たちは、予防接種の公費助成が、感染症を減らし、経済効果を高めること、予防に取組む市では出生率が増えたことを報告しました。

なぜでしょうか？子どもの感染症の9割は治療しなくても自然に治ります。しかし、治療しないと治らない1割の感染症の原因菌の多くは、抗菌薬が効きにくいのです。どんなに早く病院を受診してもらっても、治せない病気があること、救えない命があることに、私たち小児科医は何度も悔しい思いを経験してきました。

24時間365日すぐに病院にかかれる体制を作ることや、子どもの医療費に市町村の税金を費やして安くすることとは大切な取り組みですが、感染症を予防することなく、かかってからの治療に力を注ごうとしても、その成果には限界があることをお伝えしてきました。

ワクチンのある感染症のほとんどが治療法のないものです。ワクチンは、そのような恐ろしい感染症から私たちや子ども達を守ってきてくれました。そして津久見市はこれまで多くの任意予防接種に公費助成をしてくださいました。元気な子どもの声がする

津久見市であるために、医療、保健、福祉、保育、教育が力をあわせて、子どもの病気の予防に力を注いでいただきたいと思います。私も力の限り、お手伝いさせていただきます。

元気な子どもの声がする津久見であるために

